

## 2018信州総文祭を終えてのお礼

第42回全国高等学校総合文化祭「2018信州総文祭」自然科学部門大会が、皆様のご協力のもと、成功のうちに閉会式を迎えることができました。

「みすずかる信濃に若木は競い森を深める 山脈渡る風に種子を拡げて」という大会テーマのもと、「研究発表」、「ポスター発表」、「生徒交流会」、「巡検研修」などたくさんの内容が3日間の大会日程の中で行われました。閉会式で、研究発表、ポスター発表の表彰を行いました。表彰を受けられなかった学校も含めてすべての学校がこれまで積み重ねてきた成果をしっかりと発表されたと思います。これからは、全国の高校生がさらに研究を続け、来年の佐賀大会でまた新しい成果をぜひ発表してもらいたいと思います。

この大会に参加した高校生の皆さんに、お願いがあります。それは、長野の地で見たこと、聞いたこと、学んだことをそれぞれの出身地に帰り、県の報告会などを通して紹介してもらいたいということです。参加した高校生の皆さんが生の声で全国の様子を伝えることで、自然科学を愛し、研究に取り組む高校生がさらに増えていくと思います。そして、全国に自然科学の輪が広がると思います。ぜひ、信州総文祭で見たこと、聞いたことを、積極的に紹介していただくようお願いいたします。

私は4年間、専門部会長として滋賀大会、広島大会、宮城大会、長野大会と、毎年高校生の素晴らしい発表を聞いてきました。そして、一つの確信を持ちました。それは、日本の未来は大丈夫だということです。日本は、新しい時代へ向かって確実に進んで行くことができると信じています。それはなぜかというと、自然科学の分野で研究を続け、素晴らしい成果を携えて集まっている高校生の皆さんが、たくさんいるからです。そして、それぞれの県にはまだまだたくさんの高校生が、自然科学の研究に携わっているはず。その高校生が集結すれば、日本の未来は明るいと私は信じています。高校生一人ひとりの力は、微力かもしれませんが、しかし、多くの人が集まり、考え、工夫すれば問題を解決することができるはず。この大会を通じて、高校生の皆さん一人ひとりが、自分が日本の未来を担う人材なのだと感じたのではないのでしょうか。そして、それぞれの力を結集し、日本の未来を支えるのだという気概を持ってもらえたのではないのでしょうか。将来皆さんは、いろいろな職業に就くでしょうが、どのような仕事をしていても、自分たちが日本を支えるのだという気持ちを忘れずにいてください。そして、自らが研究し、開発したものが社会の発展のために用いられるように努めてください。日本の未来を担う皆さんにぜひこのことをお願いしたいと思います。

そして、信州総文祭自然科学部門大会は大成功のうちに終えることができましたが、その最大の功労者は、長野県の高校生の皆さんです。暑い中を各会場の入り口で案内をしたり、大会運営を支えてくれた高校生の皆さん、本当にお疲れ様でした。様々な場所でオレンジ色のTシャツの高校生の姿が見られました。長野県の高校生の皆さんが全国の高校生を温かく迎えてくれたことが、大会が成功した一番の原動力だと思っています。ありがとうございました。

最後になりましたが、この大会の開催に向けて準備を進めてこられました長野県実行委員会の皆様、特に林校長先生、昨年度までお世話になりました渡辺前校長先生、黒岩先生をはじめとする長野県の役員の方、多大なご支援をいただいた地域の皆様、そしてこの自然科学部門の開催に尽力をいただきましたすべての皆様に改めて感謝を申し上げます。

来年は佐賀県で「2019さが総文祭」が開催されます。自然科学部門は、佐賀市の佐賀大学を会場として開催されます。ぜひ、来年のさが総文祭に向けて、さらに研究を進めてください。

4年間部会長を務めさせていただきましたが、私の任期もこれで終わることとなりました。本当にお世話になりました。

皆さん、ありがとうございました。

平成30年8月10日

高等学校文化連盟全国自然科学専門部会長  
島根県立浜田高等学校校長  
今 井 靖